

発見！東北グルメ

農業で被災者雇用応援プロジェクト

No. 10 くう海
年 2 月、南三陸町志津川地区にす
し・井ぶりの店「くう海」がオーナー
の店「くう海」がオーナー
ポンしまして。安く・うまくモツ
ト一に、すし職人歴25年の店主菅

5月3日㈯
日に20回目、
25㈯ 26㈰に
21回目とな
る「農業で
被災者雇用
応援プロジェクト」を開
催しました。
今回のプロジェクトで
は、南三陸
歌津の小野
花匠園のお
手伝いをし
ました。

くるすしと丼ぶりは絶品です。
看板メニュー「くう海丼」は様々な種類の海鮮を一度に味わうことができるので贅沢な一品です。その他にも、「おまかせにぎり」、「おまかせ丼」など豊富なメニューを楽しむことができます。

店内の雰囲気は活気にあふれ、来た人々に元気を与えてくれます。

A woman in a bright pink hoodie and dark pants is sitting on a set of grey concrete bleachers. She is smiling and looking towards the camera. Next to her, a young child wearing a red and white patterned coat and dark pants is also seated on the bleachers. The background shows a grassy field and some trees under a clear sky.

小学生以下の方5名の参加がありました。この事業の輪が広がっていることが感じられ、嬉しい限りです。



トと菊の作業をお手伝いしました。トマトの作業では、成長して大きくなつたトマトが倒れてしまわ

作業内容は主に菊の定植。土を掘つて菊の苗を植えていく作業です。今回植えた小さな苗は、お盆の出荷に備えてたくましく育つていまわす。

プロジェクトで、参加者の方々と共に開墾した農園で作業をしました。

場では流し、
を交換
園と参
んの絆が
た、と
ました。
プロジェクト

いよ収穫の時期に突入です。真っ赤に熟した小野さんのトマトへの期待が膨らみます。

復興応援団とは

私たち一般社団法人復興応援団は、地元の方が主役となるたびに東北地方の復興活動を目的としている。地域の各市町村を東北地方の復興活動の拠点とし、地域の資源を活用して、地域の活性化や地域の発展に貢献する。また、地域の文化・伝統を守り、地域の歴史を学ぶことで、地域の未来を担う人材を育む。この活動を通じて、地域社会の活性化と、地域の持続可能な発展を目指す。

がる大きなうねりをおこすこと。南三陸町では「ボランティア派遣」事業を実施し、全国から参 加者のボランティアに、地域再生に取り組む地元の方のお手伝いをし、地域の魅力に触れてもらうことで、「地域のファン」を生み出し、長期的な復興を支える人と人のつながりをつくります。

「支え合いのネットで多賀城市興業では、今後の復興公営住宅の生活にまちづくりにも心住民がつながるような、皆さんが中二階建ての外や目指二つつながるようになります。」と、いきなりお手伝いをします。

ふりかえりの
お互いの意見
し、小野花匠
加者のみなさ
か改めて深まつ
ても充実した
エクトになり

穂の時期に突
け。真っ赤に熟
野さんのトマ
ト期待が膨らみ

私たち一般社団法人復興応援団は、地元の方が主役となるたびに東北地方の復興活動を目的としている。地域の各市町村を東北地方の復興活動の拠点とし、地域の資源を活用して、地域の活性化や地域の発展に貢献する。また、地域の文化・伝統を守り、地域の歴史を継承する活動も実施している。

がる大きなうねりをおこすこと。南三陸町では「ボランティア派遣」事業を実施し、全国から参 加者のボランティアに、地域再生に取り組む地元の方の手伝いをし、地域の魅力に触れてもらうことによって、「地域のファン」を生み出し、長期的な復興を支える人と人のつながりをつくります。

「支え合いのネットで多賀城市興業では、今後の復興公営住宅の生活にまちづくりにもっとも心住民がつながるような、皆さんが中二年生の皆さんがつながるようになります。」



復興応援団HP : <http://www.fukkou-ouendan.com/>

6月1日に生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会のみなさん57名を対象に、南三陸町の一日ガイドを担当させて頂きました。今回は南三陸の被災地を回るとともに、南三陸の様々な所でお買い物をしていただきました。参加者のみなさんは、南三陸の魅力あふれる商品を

南三陸お買い物ツアーリ

満喫していた様子でした。はじめに、戸倉中学校、志津川中学校、防災庁舎の三カ所を訪れました。初めて見る南三陸の風景に言葉をなくされる方も少なくありませんでした。その後、さんさん商店街でランチと買い物、小野花匠園と金比羅丸に立ち寄つてお話し会、



6月1日、多賀城駅前半円公園で「みんなのマルシェ2013」が開催されました。天気予報では雨となつていて不安でしたが、見事な晴れで絶好のマルシェ日和となりました。

当日、復興応援団は開場設営・駐車場管理・後片付けの手伝いをしました。開場設営では、テント

の組み立て、飾り付けをしました。マルシェ関係者が一丸となつて準備をしたことで、マルシェの円滑な進行につなげられたと思います。

マルシェでは、ド・ドリンク、手作り雑貨、ワークショップなど全23店舗が出店されていました。商品が品切れになる店も多く、今回で4



みんなのマルミ

回目のマルシェ
になりますが、
今までのマル
シェの中で一番賑わつ
ていたとおっしゃる

方々、お客様、みんなで作り上げた素敵なもの「みんなのマルシェ2013」だつたと思います。

「何か私たちにできることはありますんか? 手伝えることは何でもします。」震災の5日後に市役所にそう申し出た団体がありました。国際交流協会ともだち in 名取です。その事務局長である若山さんらは市役所に行つたその日から名取市立第一、第二

所に入つて物資の調達や物資の仕分けを行うなど、運営のサポートをしました。

『file』若山陽子さん＝「ともだち in 名取」事務局長

もだち in 名取
で、海外出身者
などの地域社会
のマイノリティ
支援にずっと取

かけをしたり、
周りに余つてい
る地域はないか
声掛けをしまし
た。衣食住がひ

おらほのヒー□

となれば、古い
ものでもいいか
らもらえないか
有泉放送で平井
かせな、一ヒ者
提案しました。
そして「物だけ
では人の心は動

らの寄付金で建
てられたカナダ
友好記念館で被
災された方の終

訪れた人に名取市や記念館の隣の建物で行われる閣上朝市の道

今後の予定

もの被災者の方のお話に親身に耳を傾けてきました。今も被災者支援の形を模索し続けている告白

念館に編み物やタオルといった被災者の方が作つたものを展示し、訪れた人の寄付を募りました。

若山さんの取り組みは、変化に柔軟に対応して、その形を変えながら、これからも続いていきます。

○団だより7月号配布	6月18日..野球場 7月2日..多賀城中 7月16日..城南	6月25日..山王 7月12日..高橋公園
7月20日(土)又は21日(日)		

地元の福祉関係
飲み会を開きま

6月29日(土)～30日(日)
○ホタテオーナー制度開発応援プロジェクト#2
クト#2
7月20日(土)～21日(日)
【多賀城】
ホツヅレサコノ

今後の予定